



BUNGO FUNAI

よみがえる  
大友館と  
南蛮都市



大分市教育委員会

# 大友宗麟の頃 豊後府内は堺とならぶ 南蛮貿易都市



オリテリウス「東インド図」この地図は1570年にヨーロッパで発行されたものです。当時の日本はまだ詳細に描かれていません。

府内には中国人が住む唐人町がありました。大友宗麟の時代以前から、大友氏は中国や朝鮮半島との貿易を盛んに行っていました。1545年、中国船に同乗してポルトガル商人が府内を訪れ、1551年にはポルトガル船が直接来航しました。このポルトガル人との貿易を南蛮貿易と呼びます。ポルトガル船は府内に数回にわたって来航したことが記録の中で確認できます。



## 南蛮貿易で運ばれた主な品々

輸入品／生糸・絹織物・鉄砲・硝石・砂糖・薬品・ガラス製品・望遠鏡・眼鏡・時計・ワイン・インド産更紗・木綿・水銀・鉛・砂時計・革製品  
菓子などのピン詰・伽羅などの香木類・コショウ  
輸出品／銀・硫黄・刀剣・海産物(ワカヒレなど)・漆器・指物類・着物・木彫りの細工物



中国／華南三彩貼花文五耳壺



中国／青花瓶



中国／碗・皿・瓶・燭台の磁器



ミャンマー／黒釉陶器三耳壺



ベトナム／長胴瓶



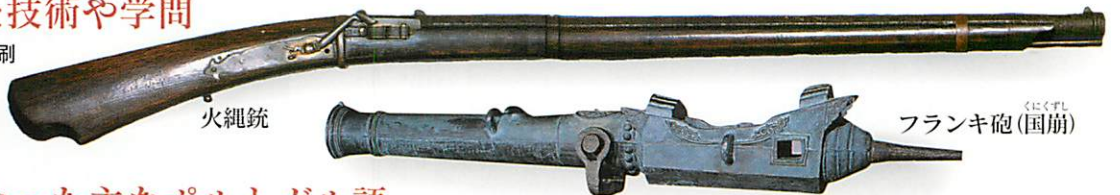
タイ／焼締陶器四耳壺



タイ／鉄絵合子蓋

## 日本に入ってきた技術や学問

ガラス工芸・漆喰・鉄砲・活版印刷  
天文学・医学・航海術・西洋音楽



火縄銃

フランキ砲(国崩)

## 日本語になった主なポルトガル語

ブランコ・ビスケット・ポタン・キャラメル・カルタ・カップ・コンペイトウ・チャルメラ・コップ・ジョウロ・オルガン・パン・シャボン・タバコ

## 大分方言になったポルトガル語

ばっぼ(蒸かし饅頭) ほーぶら(かぼちゃ)

府内の町の発掘品は、国際色豊かな内容を持ち、南蛮貿易都市として繁栄した往時の華やかさを伝えています。中国景德鎮で焼かれた碗などの逸品のほか、タイやベトナムをはじめとする東南アジア産の壺類には、当時貴重であった砂糖・火薬の原料となる硝石などが詰められ輸入されたと考えられます。中国南部で製作された華南三彩とよばれる緑・紫・黄色の三色で彩られた色鮮やかな陶器は、豊後府内を象徴する品です。



コンペイトウ



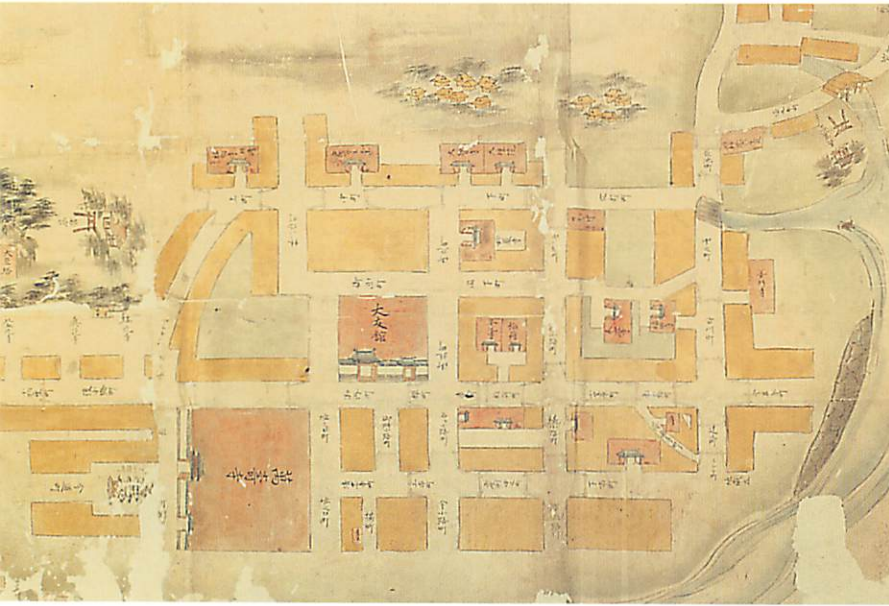
チェンパロ

青花瓶／碗・皿・瓶・燭台の磁器／黒釉陶器三耳壺／焼締陶器四耳壺／フランキ砲「複製」／火縄銃／チェンパロ「復元」／オリテリウス「東インド図」(大分市教育委員会)  
華南三彩貼花文五耳壺(勝光寺) 鉄絵合子蓋／長胴瓶(大分県教育庁埋蔵文化財センター) コンペイトウ(江後迪子)

# よみがえる宗麟の町 豊後府内

今から、四百数十年前の戦国時代、大友氏は、大分川河口左岸、現在の元町から長浜町にかけて南北約2.2km、東西約0.7kmの範囲に広がる「府内の町」をつくりました。今、長い時を超えてその姿がよみがえろうとしています。

府内の町は、南北に4本、これと交差する東西に5本の道路によって格子状に区画され、大友館を中心にして万寿寺など多くの寺社が建てられ、道路に沿って40あまりの町がありました。また、町の西側には教会や病院、コレジオといった、西洋文化の香りをにじませた一画もあり府内の町を特徴づけるものです。この町は、戦国時代の京都を描いた洛中洛外図屏風の様子とよく似ているといわれています。



府内古絵図 現在伝わっている同類の絵図の中で最も古い絵図です。発掘状況などから、島津氏による府内侵攻直前の町の様子を描いたものと考えられます。



上杉本 洛中洛外図屏風(室町將軍邸部分)

## 1 京都を意識した都市

府内の町は、当時の京都を描いた洛中洛外図屏風に近い姿であったと考えられます。大友館も伝統的な室町將軍邸を模したものであったようです。



南蛮屏風(キリスト教会部分)

## 3 南蛮文化の花開いた都市

キリスト教とともに、西洋音楽・医学などの南蛮文化が、日本でいち早くもたらされました。

## 2 南蛮貿易都市

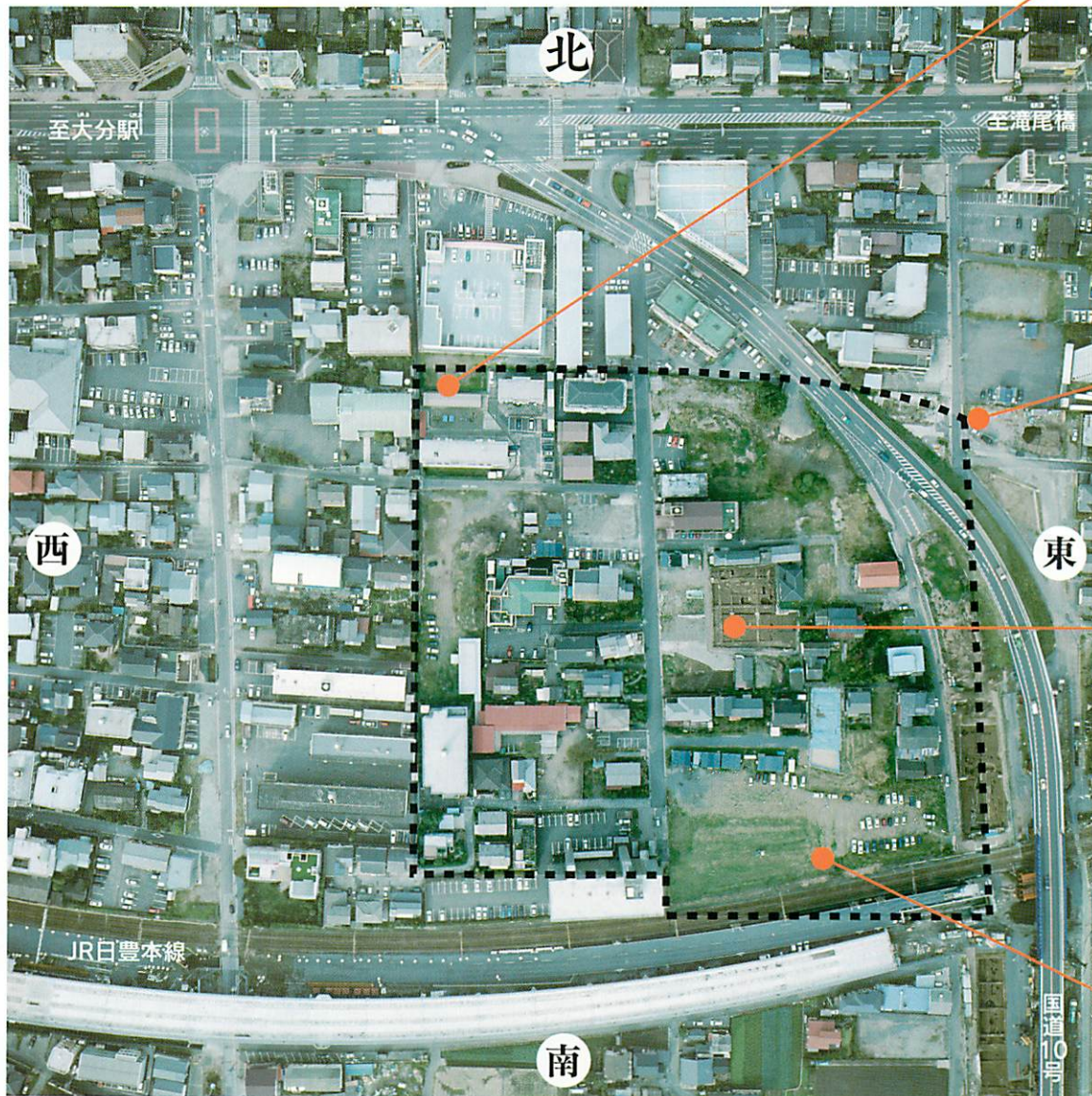


南蛮屏風(南蛮船出航部分)

発掘された品々は国際色豊かな内容で、西洋・東南アジア・中国などとの貿易・交流の歴史を物語り、繁栄した往時の華やかさを伝えています。



# 大友館跡の姿がしだいにあらわれてきました



現在の顕徳町周辺と大友館跡の推定範囲

大分市教育委員会では、平成10年(1998)より、戦国時代に北部九州6ヶ国を支配した大友氏の館跡の発掘調査を行っています。その結果、館はおよそ約200m四方という広大な面積をもち、巨大な庭園や主殿などの施設があり、戦国大名の館としては全国屈指の規模であったことが、しだいに明らかになってきています。



現地説明会



発掘体験



築地堀の基礎の跡

## 北を囲む築地堀跡

砂と粘土を交互に積み上げ、両側に溝を掘っています。



木戸の跡

## 南北道路跡

館跡の正面(東側)では、南北方向に幅約11mの道路が見つかっており、当時のメインストリートと考えられます。

### 館跡からは どんなモノが 見つかったのでしょうか!

館跡からは、茶道具、海外から輸入された陶磁器、京都のものを模したかわらけ(素焼きの土器)など、様々な遺物が発見されました。当時、宗麟は茶の湯を愛好しており、高価な茶器を所蔵していた記録も残されています。また、大量のかわらけは、館の中で京都と同じ武家の儀礼、儀式、宴会がおこなわれていたことを物語っています。



玉砂利



かわらけ(儀式の際に酒器などとして使用)



花入れと茶道具

## 主殿(中心建物)の基礎

大きな建物の柱を支える基礎となる石(礎石)を安定させるための根締石ねじめいしが現れました。



## 庭園跡

館跡の南東部分にあり、水をたたえた池庭と考えられます。池の広さは東西約66m、南北16m以上で、まわりに玉砂利を敷き、庭石(景石)をならべた様子がうかがえます。

国指定史跡

# 大友館跡整備のイメージ

大友館跡を中心とする大友氏遺跡は、西洋・東南アジア・中国など、海外との広いつながりを示す日本の戦国時代を代表する歴史遺産です。大分駅周辺総合整備事業と合わせて今後整備を行うことにより、大分市が全国に発信できる新たな魅力とシンボルになり得るものと考えています。





史跡の保存整備のあり方には、さまざまな方法が考えられます。このイメージ図は、主殿・庭園・正門など、館の中心施設を立体的に復原し、他の施設はその位置を平面的に表してみました。

なお、この図は、これまでの発掘調査の成果や戦国時代の京都を描いた屏風びょうぶの中の室町將軍邸などを参考にしてイメージしたものにすぎません。

今後の整備のあり方や活用については、発掘調査などのデータをもとに、各方面の方々の意見をいただきながら進めていきます。



# 府内の町のくらしとにぎわい

発掘調査では、当時のくらしを物語る数多くの遺物が出土しています。

記録によると、府内の町は約5,000軒の家屋が軒を連ねていたとあり、当時としては日本有数の都市でした。夏には民衆の一大イベントである祇園の祭りが盛大に催され、大変なにぎわいであったと記されています。

## 商人と職人



分銅

遺跡からは商人が商いをするときに使った分銅や天秤などのほか、鍛冶職人の存在を示す、取瓶・坩堝も出土しています。



鉄製の鋤・鍬



丸包丁



取瓶・はさみ

## 遊び

中世の絵巻物や屏風絵の中には、羽根突きや独楽回しをする子供達や、囲碁・将棋・すごろくなどを楽しむ大人の姿が描かれています。府内の町跡からも独楽・碁杖の玉・将棋の駒・さいころなど遊びに関わるものがたくさん出土しています。



碁牌



独楽



碁杖の玉

(碁杖:スティックのような木の枝を使用する玉ころかし)



サイコロ



将棋の駒

## 祭りと祈り

府内には祇園宮(弥栄神社)の祇園祭と由原(柞原)八幡宮の放生会という二つの大きな祭りがありました。祇園祭では山車がメインストリートに繰出し、大いに賑わっていたことを記録から知ることができます。また、さまざまな「まじない」や祈りに関わる遺物も数多く出土しており、町人に広く流行していたようです。



猿形木製品



猿形土製品



地蔵菩薩像



懸仏



持念仏



犬形土製品



### 国宝 上杉本洛中洛外図屏風

戦国時代の京都を描いた屏風の一部で、町人のくらしの様子がいきいきと描かれています。おそらく府内もこのようなくらしぶりであったと想像されます。



## 住まい

間口が狭く、奥に長い住まいが一般的な町人の住居の形でした。前の部分をお店に使用し、奥には井戸などがあることから、生活する場であったと考えられます。



礎石を使用した町屋跡(桜町跡)



石組み井戸跡(林小路町跡)

## 食べ物

アワビ・サザエ・ハマグリ・アサリ・ヤサラなどの貝類、マグロ・タイなどの魚類、ウシ・イノシシ・シカ・犬・鳥類・スッポンなど当時食べられた貝殻や骨が発掘調査で見つかっています。また、食卓を飾った食器(漆器)や箸なども見つかっています。



貝類



牛の頭骨



漆器椀



素焼きの箸置き



箸

# 南蛮文化のかおるまち・府内

聖フランシスコ・ザヴィエル像(神戸市立博物館)



1551年

ザヴィエル府内を訪れる

フランシスコ・ザヴィエル(1506-1552)は、スペイン人でイエズス会の宣教師でした。1549年(天文18)キリスト教を伝えるため来日しました。鹿児島・平戸・京都を経て山口に滞在中、宗麟の招きをうけて府内を訪れました。布教を許されたザヴィエルは二ヶ月ほど滞在し、インドのゴアにもどりますが、これをきっかけに府内に宣教師が訪れキリスト教布教の拠点のひとつとなり、西洋音楽・医術・演劇などがもたらされることになりました。また、1581年(天正9)には、コレジオ(学院)が開校されました。

## 発掘されたキリシタン関連の品々



キリシタンのものと考えられる墓

大阪府高槻城跡<sup>たかつきじょう</sup>で発見されたキリシタン墓に非常に似た木棺墓<sup>もつかんぼ</sup>です。腕を十字に組み、横たわった姿で埋葬されています。他の場所でもロザリオの一部であるメダイやコンタなどキリシタン関連の遺構や遺物が出土しています。

西洋医術発祥記念像(遊歩公園)



1556年

西洋医術の始まり

1556年(弘治2)の暮れ、ルイス・アルメイダは、府内の町に日本初の西洋式病院(府内病院)を建てました。アルメイダは、ポルトガルで医術を学んだのち、商人に転身しアジアとの貿易で成功します。日本に来てイエズス会に入り、布教の一環として医療活動を積極的に進めました。病院では、内科、皮膚科などの治療のほか簡単な外科手術がおこなわれたことから、豊後府内は西洋医術発祥の地といわれています。病院は、京都や堺あたりまで非常に評判となり、ポルトガル船員や関西方面からも患者がやってきました。

コンタ(大友館の南側から出土)



メダイ(大友館東南の町跡から出土)

ロザリオ(現在のもの)



メダイ/コンタ/キリシタン墓(大分県教育庁埋蔵文化財センター)

府内の町を彩ったのはキリスト教でした。フランシスコ・ザヴィエルは約2ヶ月布教した後、府内からインドへ旅立ちましたが、翌1552年ガゴ神父一行が到着し、以後府内には宣教師が常駐するようになりました。

宗麟はガゴ神父に教会用の敷地を与え、1553年、府内教会が建てられました。教会では各種の儀式や行事にオルガンの伴奏で聖歌が歌われたり、聖書に題材をとった物語劇が演じられました。また祈りの時間に鐘が鳴らされるなど、府内は南蛮文化の香りがただようまちでした。

西洋音楽発祥記念碑(県庁前広場)



天正遣欧使節肖像画(京都大学附属図書館)



## 1557年 府内の聖歌隊の結成

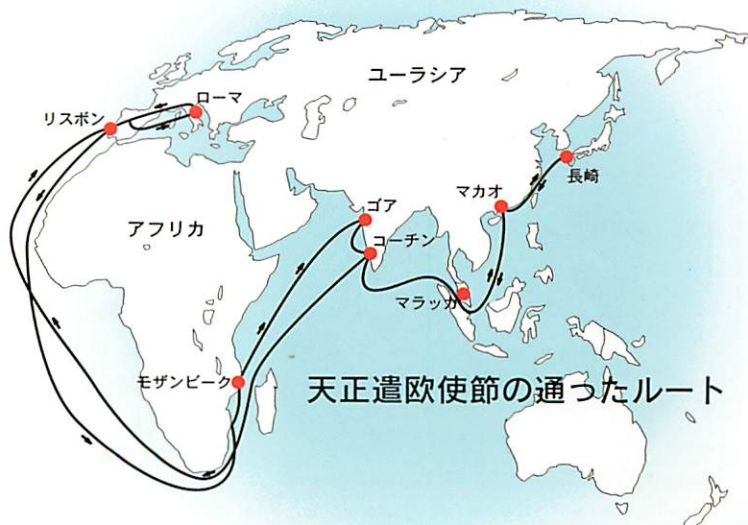
1557年(弘治3)、府内教会で復活祭の聖週のととき、府内のキリシタンによる二つの聖歌隊がオルガンの伴奏で賛美歌を歌いました。これが、日本人による初めての西洋音楽の演奏といわれています。また、1569年(永祿4)、修道士サンチェスは15人の少年に歌とヴィオラ(弦楽器の一種)を教え、翌年の9月には宗麟が教会を訪れたときに演奏しました。



ヴィオラ・ダ・ガンバ  
(大分市教育委員会)

## 1582年 天正遣欧使節の派遣

1582年(天正10)2月、イエズス会巡察師ヴァリニャーノの主導で、伊東マンショ(右上)・千々石ミゲル(左上)・原マルチノ(左下)・中浦ジュリアン(右下)の4人の少年がキリシタン大名である大友氏・有馬氏・大村氏の名代としてローマに派遣されました。彼らは長崎を出航して、約3年余りの年月を経た後、1585年(天正13)3月、ローマに着き、教皇グレゴリウス13世に謁見しました。彼らはヨーロッパ各地で歓待され、キリスト教についてだけではなく、西洋音楽や印刷技術も学びました。しかし、1590年(天正18)、8年あまりにわたる長旅から帰国した日本では、豊臣秀吉による宣教師の国外追放令が出されたあとで、4人の知識は十分に活されませんでした。




天正遣欧使節の通ったルート


# 大友宗麟の生きた時代

大友宗麟は、1530年(享禄3)に20代大友義鑑おともよしあきの長男として生まれました。織田信長おたのぶながや豊臣秀吉とよとみひでよし、徳川家康とくがわいえやすらの天下人てんかびととほぼ同世代の人です。宗麟が活躍した16世紀後半、日本では大名、中小武士たちが入り乱れて戦い、まさに弱肉強食の戦国時代でした。


海外に目を移せば、中国商人たちが、日本の銀を求めて、生糸や絹織物、陶磁器などを持ち込んできました。また、東南アジアのマラッカに進出していたポルトガル人も日本との貿易に参入し、海を舞台に、ポルトガル・中国、そして日本の人々が躍動していました。

戦国時代	義鑑	1550	二階崩れの変で大友義鑑殺害される 大友義鎮(宗麟)家督を継ぐ
	義鎮(宗麟)	1551	ポルトガル船初来航・ザヴィエル府内に来る
1559		義鎮、北部九州6ヶ国の守護職となる	
1563		このころ義鎮は、剃髪し宗麟と号す	
1578		宗麟キリスト教に入信する 日向での戦いで大友軍、島津軍に敗北する	
1581		府内にコレジオできる 伊東マンショらローマに向かう	
安土桃山時代	義統	1586	島津軍が豊後に侵攻
		1587	宗麟死去(58歳)
		1592	宗麟の子大友吉統(義統)、秀吉の朝鮮侵攻に従い出陣
		1593	吉統、秀吉により豊後を除国される
		1600	関ヶ原の戦い







織田信長  
(1534~1582)



島津義弘  
(1535~1619)



毛利元就  
(1497~1571)



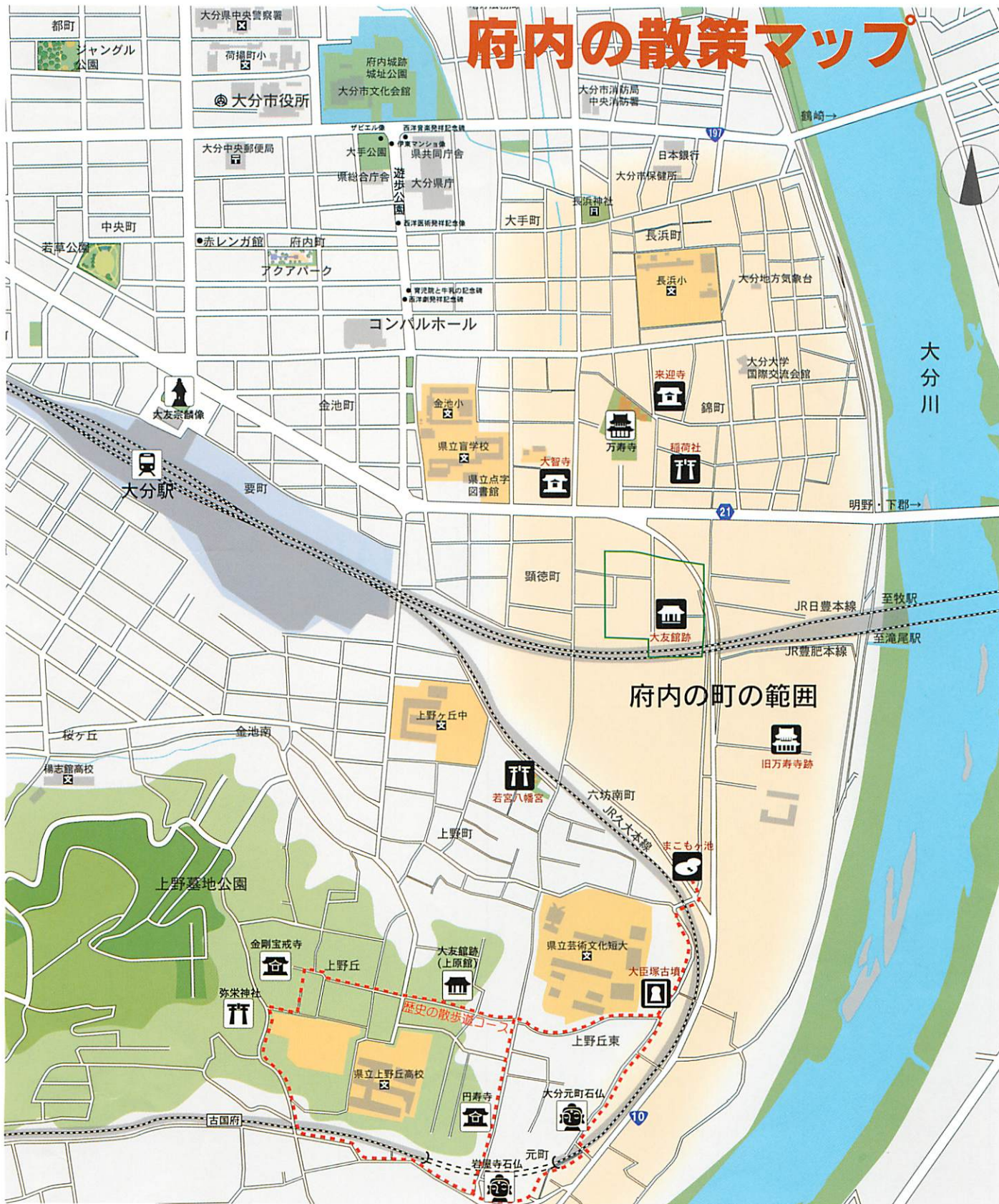
豊臣秀吉  
(1537~1598)



## 大友宗麟(1530~1587)

1550年(天文19)、21歳で家督を継いだ大友義鎮よししげこと宗麟は、父義鑑から受け継いだ豊後・肥後に加え、1554年(天文23)に肥前、1559年(永禄2)には筑前・筑後・豊前の北部九州6国の守護職を手に入れ、九州探題にも任じられました。領国を拡大させた宗麟は、毛利氏・龍造寺氏・島津氏らと九州の覇権をめぐる戦いをくりひろげる一方、ポルトガルや中国などとの外国貿易を積極的に進めました。1551年(天文20)には、フランシスコ・ザヴィエルを府内に招き、キリスト教の布教を許可し、手厚く保護しました。府内は国内最大の布教拠点となりました。

# 府内の散策マップ



## 府内の町の範囲

### 表紙写真

こうじきんらんでほうそうげもんわん

#### 紅地金襷手宝相華文碗 (根津美術館)

中国明代に景德鎮窯で焼かれ、外面に赤の釉薬を施し、絵柄の宝相華唐草文は金箔によって描かれています。同様の碗の破片が田万寿寺の堀跡から出土しており豊後府内の国際性を裏付ける逸品です。

#### 南蛮屏風 (神戸市立博物館)

### 裏表紙写真

かちようまきさらでんようびつ

#### 花鳥蒔絵螺鈿洋櫃 (大分市教育委員会)

当時、日本からヨーロッパへ輸出されていた工芸品の代表です。黒漆塗りを基調に金銀の平蒔絵や螺鈿技法を駆使したもので、ポルトガル人の好みに合わせた注文品であり、南蛮漆器と呼ばれています。

●本パンフレットの作成にあたり、次の機関及び各位から多大なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。  
大分県教育庁文化課、大分県教育庁埋蔵文化財センター、米沢市上杉博物館、神戸市立博物館、京都大学附属図書館、勝光寺、根津美術館、大阪市立美術館、山口県立山口博物館、豊栄神社、尚古集成館、瑞峯院、大分市立上野ヶ丘中学校、江後迪子(順不同・敬称略)

## よみがえる大友館と南蛮都市

編集・発行 / 大分市教育委員会文化財課

印刷 / 極東印刷紙工株式会社

発行日 / 平成18年3月

# BUNGO FUNAI

よみがえる大友館と南蛮都市

